学校番号	４１５

令和２年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「家庭総合　自立・共生・創造」（東京書籍）						
副教材等	Super Live View　家庭科　資料＋食品成分表（東京書籍）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・日常生活との関わりを認識し、家庭や地域、社会に関心を持って積極的に取り組みましょう。
・実習を取り入れ、知識・技術を実践的・体験的に習得します。
・多様な考え方を知り、自分の考えを持ちましょう。

２　学習の到達目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活などについて関心をもち、その充実向上をめざして主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活などについて生活の充実向上を図るための課題を見いだし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活などに関する技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活などに関する知識を総合的に身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述 自己評価　等	学習状況の観察 ワークシートの記述 定期考査の結果 自己評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述 製作品 定期考査の結果 自己評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述 定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4月・5月・6月	自分らしい人生をつくる	○生涯発達の視点 ・発達段階と発達課題 ・青年期をどう生きるか ○人生90年時代を生きる ・多様なライフスタイル ○家族・家庭を見つめる ＊結婚相手オークション ＊法律クイズ ○これからの家庭生活と社会 ・男女で担う家庭生活 ・家庭生活と地域・福祉	○ ○ ○ ○	 ○	 ○	○ ○ ○ ○	a:青年期の生き方や家族・家庭についての学習を自分の問題として捉え、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:家族・家庭と社会との関わりについての課題を知り、その解決をめざして思考を深め、文章にまとめている。 c:事例研究を通して、家族や家庭生活の在り方について検討する技術を身につけている。 d:人の一生を自分の問題として捉えるために必要な知識を身につけている。	学習状況の観察 ワークシート 定期考査
7月・9月・10月	子どもと共に育つ	○命を育む ・子どもの誕生 ○子どもの育つ力 ・生まれつき持っている能力 ・身体の発達 ・心の発達 ・遊びの発達 ○親として共に育つ ・子どもの生活と保育 ＊チャイルドマウス、 チャイルドビジョン ＊沐浴実習 ＊絵本製作 ○現代の子育て環境	○ ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○	a:保育に関心を持ち、保育の重要性や社会の果たす役割について考えようとしている。 b:子どもの発達と保育について、現代の家庭や社会を見つめて課題を見いだし、その解決を目ざして思考を深めている。 c:子どもの健やかな発達を支えるために必要な技術を身につけている。 d:子どもの発達と保育について理解し、家族・地域・社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身につけている。	学習状況の観察 ワークシート 実習レポート 製作物 自己評価 定期考査

11月	高齢社会を生きる	○高齢社会の現状と課題 ○高齢者の心身の特徴 ○高齢者の自立を支える ＊高齢者体験実習 ＊車椅子体験実習 ○高齢社会を支える仕組み	 ○ ○ ○	 ○ ○	 ○	○ ○ ○ ○	a:実践的、体験的な活動を通して、高齢者に関心を持ち、学習に取り組もうとしている。 b:高齢者が尊厳を保ち、人生を全うするためのケアの在り方について考え、まとめている。 c:日常生活に必要な基礎的介助ができる。 d:高齢者の心身の特徴やわが国の高齢化の状況を理解し、家族・地域・社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身につけている。	学習状況の観察 ワークシート 実習レポート 自己評価 定期考査
12月	共に生き、共に支える	○社会保障の考え方 ○共生社会を目指して ＊身の回りのユニバーサルデザイン探し	 ○	○ ○	 ○	○ ○	a:共生社会における家庭や地域の一員として、主体的に行動しようとしている。 b:共生社会を実現するために、社会の一員として何ができるかを考えている。 c:自分の身の回りのユニバーサルデザインを知り、その意味をまとめることができる。 d:共生社会の重要性について理解している。	学習状況の観察 ワークシート 自己評価 定期考査
1月・2月・3月	経済生活を営む	○職業生活を設計する ○家計のマネジメント ・収入と支出 ・金融資産の運用 ○国民経済・国際経済 ○現代の消費社会 ・契約トラブル ・商品の購入方法 ○消費者の権利と責任 ○消費生活と地球環境 ・消費者としてできること	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a:生活における経済行為、消費者の権利と責任などについて関心をもち、意欲的に学習活動に取り組んでいる。 b:消費生活についての課題を見いだし、その解決を目ざして思考を深めている。 c:自立した消費者として、消費生活に関する情報を整理し、自らの消費行動に活かすことができる。 d:生活における経済行為、消費者の権利と責任などについて理解し、適切な意思決定に基づいて行動するために必要な基礎的な知識を身につけている。	学習状況の観察 ワークシート 自己評価 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　＊は、ワークショップ、実習・実験など実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習活動を示している。

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。